

# 東シナ海ブロック水産業情報

No. 112(2021年1月～3月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>特になし。</p>	<p>○筑前海 【カキ養殖】 ・生産は順調で、平年を上回る。</p> <p>○有明海 ・1月9日から冷凍網は出庫され、1月17日から摘採開始、製品の質は良好。 ・2月25日～3月8日に珪藻(スケルトネマ、キートセロス属)、3月29日～は珪藻(キートセロス、ユーカンピア属)が赤潮化、栄養塩が減少し2月10日～漁期末まで色落ちが継続した。 ・フリ網撤去は2月末から開始、4月7日まで網の撤去が終了、4月10日～23日まで支柱撤去が行われた。 ・冷凍網生産は、生産枚数7億6,200万枚(過去5年比78%)、生産金額81億5,200万円(過去5年比65%)、平均単価10.70円(過去5年比-2.22%)。 ・生産累計は、生産枚数12億8,416万枚(過去5年比101%)、生産金額133億5,018万円(過去5年比80%)、平均単価10.40円(過去5年比-2.81%)。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・生産は順調で平年を上回る。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。</p>	<p>○有明 ・カキ養殖 令和3年度の生産は、令和3年1月に宮城県から種カキを搬入し開始されている。搬入された種カキは、大浦地先の干潟で抑制飼育を行い、養殖筏への種カキの垂下は、4月中旬から順次行われ本養殖が開始されている。 ・ノリ養殖 冷凍網の出庫は1月9～10日に行われ、出庫後の戻りは良好であった。しかしながら、その後、12月下旬以降の継続した赤潮(スケルトネマ等)の発生と1月下旬の少雨により色落ちの発生が例年より早く、また、2月下旬以降のアカグサレ病の被害も加わって、冷凍網期の生産枚数は平年よりも少なかった。秋芽網期と冷凍網期を併せた生産は、枚数17.7億枚、金額200.4億円となり、15年度以降18年連続で生産枚数・金額ともに日本一となる予定である。</p> <p>○玄海 ・カサコ: 6月上旬から8月上旬に全長50～60mmを3.5万尾配布済。 6月下旬から7月上旬に全長60～70mmを5万尾配布済。 ・クロアワビ: 平成30年度産:4月下旬に放流用約3千個(30mmサイズ)を配布済。 令和元年度産:殻長20～33mm約2.4万個飼育中。 ・ナマコ: アオナマコは6月中旬から8月上旬に76.4万個配布済。 アカナマコは7月上旬から8月上旬に37.4万個配布済。 ・マサバ: 60mmサイズ約3.3万尾を唐津市へ引渡完了。</p>		<p>【1月】 プリでレンサ球菌症、マダイでスクーチカ症 【2月】 トラフグで滑走細菌症 【3月】 マダイでベネデニア症とスクーチカ症、トラフグでトリロディナ症</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・3月中旬～八代海(浦底湾)で<i>Heteroshigma akashiwo</i>による赤潮が発生(漁業被害なし)した。</p>	<p>Ⅱ型α溶血性レンサ球菌症市販ワクチンを養殖現場で接種済みのカンパチに対して同ワクチンを再接種し、当該疾病抑制効果を実施中(続報)。 4月に東北養殖場より導入したカンパチ供試魚(R1年8月3日ワクチン接種済)群を「1回接種区」、同群一部に再接種(R2年5月18日)した群を「2回接種区」として、感染試験3回目として平均水温16.3℃下でⅡ型レンサ球菌感染実験(③1/6～2/4)を行い、再接種の効果を検討した。初回接種から17カ月経過の「1回接種区」は10尾中7尾死亡で効果は認められず、一方、2回目接種から8カ月経過の「2回接種区」に死亡はなく、効果が認められた。養殖現場ではワクチン初回接種から6カ月前後で本症が発生するとの意見があり、今回の試験で低水温下での感染という状況はあるものの再接種から8カ月を経過した時点で死亡が出ていないことから、2回接種によるブースター効果の発現の可能性も考えられた。</p>		